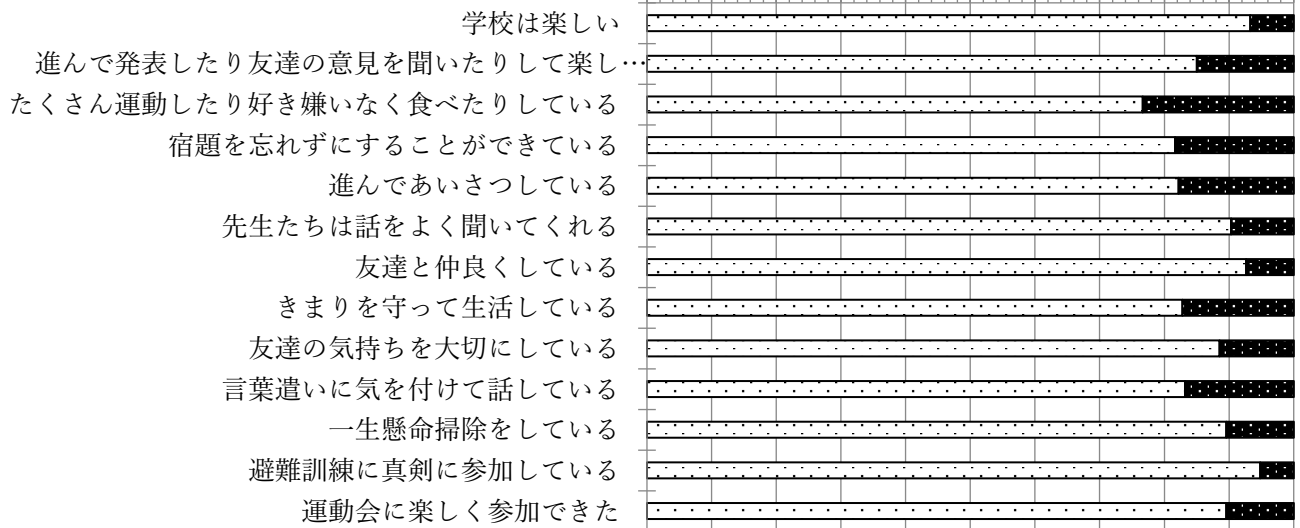


令和2年度南小学校評価 【低学年児童】

□ そう思う ■ そう思わない

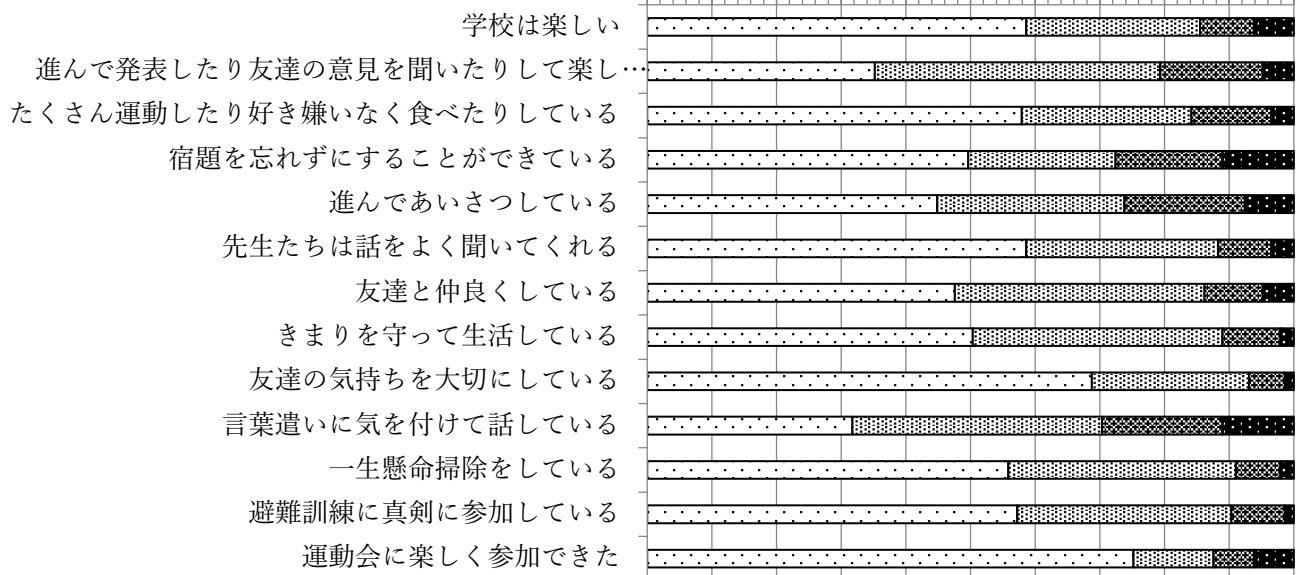
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



令和元年度学校評価 中学年児童アンケート

□ そう思う ■ 少しそう思う ▨ あまりそう思わない ■ そう思わない

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



<低学年分析>

- ・ 「学校は楽しい」と答えた児童が昨年度と比較して多くなった。全般的に肯定的な回答が多くなり、前向きな姿勢で生活していることがうかがえる。
- ・ 昨年度は、「先生たちは話をよく聞いてくれる」が低下したが、今年度は9割の児童が肯定的な回答をした。今後も低学年の稚拙な言葉にも受容と共感をもって傾聴する姿勢をもちたい。
- ・ あいさつがよくでき、心優しく、友達の思いによりそう児童が多いが、低学年だからこそ正しい言葉遣いの指導を家庭と連携して行う必要がある。

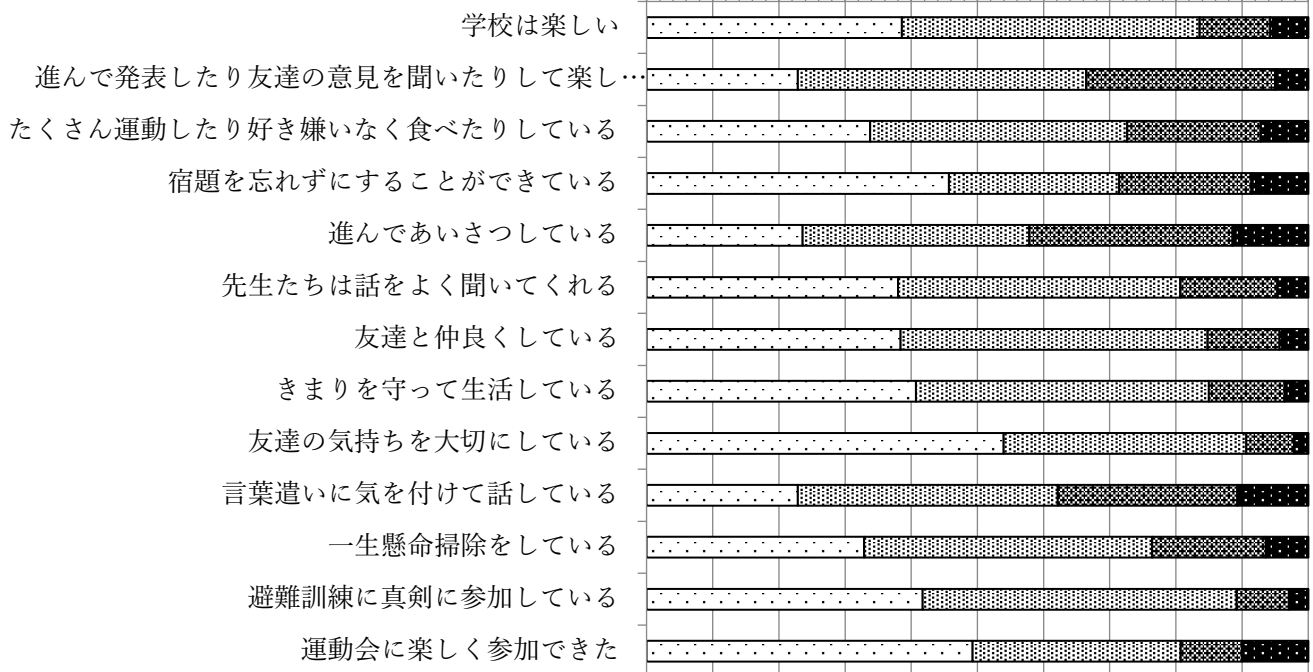
<中学年分析>

- ・ 「学校は楽しい」と答えた児童が昨年度と変わらず多い。全般的に肯定的な回答が多くなり、前向きな姿勢で生活していることがうかがえる。
- ・ 「進んであいさつしている」への肯定的な回答が昨年度から増えた。ただ、言葉遣いの指導と合わせて、地域・家庭と連携した目標を共有した取組が必要である。
- ・ 今年度の運動会は、コロナ禍のためにブロック制で半日の開催であったが、楽しく参加できたと回答した児童が圧倒的に多い。主体的に参加し、満足を得たことがうかがえる。
- ・ 友達と協働した問題解決学習や学び合う学習の場面設定とそのための授業規律の確立が課題である。

令和2年度学校教育評価 高学年児童アンケート

□ そう思う ▨ 少しそう思う ▩ あまりそう思わない ■ そう思わない

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



<高学年分析>

- ・ 「学校は楽しい」に対して「あまりそう思わない」「そう思わない」児童が約16%いる。このような児童が各学級に4・5人在籍している。個々の発達特性により集団生活になじみにくい状況があったり、学習への不安があったり、いじめ行為・問題行動への不安があったりと、理由は多様であろう。「先生たちは話をよく聞いてくれる」への否定的回答の全校平均が約14%であり、この2つの項目への回答への相関性も一考すべきであると考え。多様な課題を抱える児童一人一人へのさらなる受容と共感が必要であろう。
- ・ 「進んであいさつしている」「言葉遣いに気を付けて生活している」の項目に肯定的な回答が少ないが続いている。保護者や地域からも同様の意見があり、学校をあげての地域・家庭と連携した目標を共有した取組が必要である。
- ・ 高学年であるほど、自己肯定が下がる傾向にある。学校の核・リーダーとして活躍する様子を機会あるごとにとらえ称賛することで、明るく朗らかに学校生活を送れるよう導きたい。